

新中期三ヵ年計画について

平成15年3月7日
三菱製紙株式会社

三菱製紙株式会社(本社：東京都千代田区丸の内三丁目4番2号)は、2003年から2005年迄の3年間における経営計画を作成した。

生き残る為の諸施策は2002年度で終了し、今後は「果実を収穫し勝ち抜く為の三ヵ年」と位置づけるものであり、2003年度からの黒字化を果たすと共に、2005年度には経常利益率5%以上を達成し、次期中期計画につなげていく。

1. 計画の名称

新中期三ヵ年計画

2. 計画期間

2003年4月～2006年3月

3. グループの目指す姿

紙事業を中心とした総合プリンティングメディア/システムメーカーとして、既存分野の競争力を高めると共に、基盤技術を活かした新規事業を積極的に手がけることにより、業容を拡大する。

4. 三ヵ年の経営方針

(1)黒字化とその定着

計画値は「勝ち抜く為に、最低限達成する」とし、状況の変化に対する迅速な対応で、結果として利益を上げることを第一に考え、2005年度の経常利益率を5%以上にする。

特に、「写真感材(北上工場)」「ドイツ子会社」の早期黒字化を最優先課題として取り組む。

(2)財務体質の改善

過去の設備投資で膨らんだ有利子負債を3年間で380億円削減し、健全な財務体質を取戻す。

その為に、単体の新規設備投資を3年間で150億円以下に抑える。

(3)全費用項目の総点検

慣習、常識、経験といった既存概念に囚われることなく、あらゆる項目に対して、費用対効果を点検することで、優先順位を明確にし、企業のコスト競争力を上げていく。

(4)国際競争力の強化

基盤技術をベースにして、世界市場での展開を図っているが、海外生産・海外仕上・生産委託を含め、ワールドワイドで最適な生産と販売を行う。

(5)全社員による商品開発

全社員が、一人一人の経験、知識、技術を活かし、組織横断的に協力することで、市場ニーズに合った新商品の迅速な開発を行い、設備の運転効率を向上させていく。

5. 経営計画値

連結計画値

	予 測	計 画		
	2002年	2003年	2004年	2005年
売上高(億円)	2,360	2,400	2,500	2,600
経常利益(億円)	△ 35	50	90	130
経常利益率(%)	△ 1.5	2.1	3.6	5.0
当期純利益(億円)	△ 150	60	30	95
有利子負債(億円)	2,280	2,220	2,030	1,900
在籍人員(人)	5,500	5,400	5,200	5,000
ROA(%)	△ 3.9	1.6	0.8	2.7
ROE(%)	△20.2	8.1	3.8	11.2

単体計画値

	予 測	計 画		
	2002年	2003年	2004年	2005年
売上高(億円)	1,620	1,650	1,750	1,850
経常利益(億円)	△ 30	30	65	100
経常利益率(%)	△ 1.9	1.8	3.7	5.4
当期純利益(億円)	△ 150	55	25	85
有利子負債(億円)	1,520	1,450	1,280	1,170
在籍人員(人)	2,100	1,900	1,800	1,700
ROA(%)	△ 5.2	2.0	0.9	3.2
ROE(%)	△19.0	7.1	3.1	9.8

6. 経営施策

上記計画値を達成する為に、経営課題として「北上新設備の早期黒字化」「ドイツ子会社の収益改善」「アルミCTP版事業確立」「販売力強化」「生産体制の点検と再構築」「研究・技術部門の強化」「全費用項目の総点検」の7項目を設定した。各々のサブテーマ毎に役員をリーダーとし、強力かつ迅速に実施していく。

以 上

お問い合わせ先：	三菱製紙株式会社 社長室経営企画部長 上村 茂 Tel：03-3213-3763
----------	--